

！さらなる民主化斗争の推 進と勝利にむかっ！

＜全学斗争斗争委員会＞

文理5・25抗議集會を、突破口とし切り
開いた民主化斗争は、5・27全学部斗争に
1000の学友を結集し、全学規模一万二千
名の中に大まかな力を発揮した。我々は今運
動の向揚している中、再度34億問題を深部
まで掘り下げなければならぬ。

なぜなら、この問題は学友の即時的要求や
怒り、道義的反抗のみでは決して運動が
さらに推進されて行くとは云えない。

我々は再度34億問題を学友が主体とな
ってとらえかえし、運動が深部まで形成
され学友自身に運動の主体となるよう今
こそ要求されている時はないと考える。

学友は今まで当局の偽善的見解や教授
を媒介としたイデオロギー注入・圧迫・
抑圧・恫喝・一部体育系学生の威圧弾圧
とに完全に威縮させられ無気力と無関心
の中に落しこまれていた。当局はなぜ今
までこのような政策をなし今その政策が
崩壊しつつあるのように見えるけれども、
さらに当局に対する最後の鉄鎚を加える
べく、認証主体を強固に打ち回る必要
があると考える。34億に具現化されたと

ころの当局の実体と内実たる深部まで追
求するならば古田(理事者)体制そのもの
の形成過程(社会政策)池田(づくり政策・
54年全学運動新教育政策)産業合理化に即
応した大学教育の改編強化が問題とされ
ればならない。産業界に古田はすぐさま
答え、文理においては数学科事件、六時限
制の強要されて来たのであった。

数学事件は日大から科学技術庁長官が
出たといふことからは古典理論の数学は役
立たないといふばかりの応用数学科の
増設をにらみながらあった。産業界の利
害に役立つ学問を職掌し、四名の教授を
君臨し本学の思想に合わないと解雇し、
しつこく4名が専断に暴行を働かせた
のであった。我々学問をとらえる時汚
れた手や利益を求む一部の人間の手を
住するに批判的であることと断じて専断
する。また日大は他大学と比べ理工系が
多く、生産工学部、企業に定属、本学
科の増設が54年計画の名のもとに進め
られて行つたのである。このような産業
界と一体となった学問は学生の入ぐり

化と学問の完全な脱離とにさせられ
当局は徹底的に貫徹して来たのである。
このような政策を当局は実行させ
るため必然的帰結とした、徹底的され
た教育長新政策、学生指導の強化促進
(学生の居ねま化)、研究ヒューマン故に全
体的な劣化による研究の脱離、これらと
構造的な劣化の年々の施設拡張と一收業
の増進とマスプロのサイクル、
六時限制強要が期的に示して居る。

昨年の日大新司に古田が表明した大
学院の充実(助教、助手の養成を爆
発させた、産業界名士の保障)の産学
共同政策の貫徹して来る前の日本精
神という学生居ねまのためのイデオロ
ギー注入・サイクル、さらに大学の精
魂物としたエセ大学化(わざと学生
には許可制や学生指導による)を
示して来た。このまま大学の改編強化を
我々は絶対許してはならない。

我々がもつとも抱えている一社会
系の弾圧でなく、当局の徹底的な教育
政策である突破して行く闘いを推進し、同時に
当局の尻押し御用自治会をものり
こえて行き彼らの三位一体論なるイデ
オロギーを粉碎して行く必要がある。

また我々は当局の新たな策動をのり
こえて行くべく、国統局にデマを報道
した、便途不明金はないんだとひらき
なおったことに理論的に対峙する女闘
がある。

再度我々は34億問題を日大の「史と
諸事件にたいし場所的立場に主体をと
らえかえし、変革の主体となるうでに
ないか！
マスプロ授業料の値上げのサイクル
を強行する当局の立場は何にか！
その物質的根拠は何にか！

！我々は今新課程の中より次のことが
を提出する。

- 教育長勤政反対！
- 大学の改編強化反対！
- 産学共同政策反対！
- 理事者は即時退陣せよ！
- 学生指導強化反対！
- 許可制撤廃！
- 不当処分白紙撤回！
- 当局の尻押し御用自治会粉碎！
- 一部体育系学生の弾圧阻止！